

学校教育委員会報告



第7回 学校交流会を開催して

楢原 弘之*

Hiroyuki Narahara

河田 直樹**

Naoki Kawada

2024年3月2日(土)13時~17時にかけて、学校教育委員会行事として、7回目となる完全オンライン形式での学校交流会が、九州工業大学をホスト校として開催された。

参加者総数は、20名(内訳:教員等学校関係者9名、企業関係者4名、学生7名)であった。前回は増加の傾向にあったが、再び20名前後で推移する形に戻った状況にある。

次回以降の参加について、幅広く声を掛ける必要があると考えさせられた交流会となった。

今回の交流会は、恒例の学生の卒業後の将来技術者としての心構えを意識させるメッセージを伝える基調講演と、前回夏の交流会に発表できなかった学生(指導教員)1名の学生賞受賞記念講演、卒業研究や大学院の研究の中間発表が行われた。

基調講演は、前橋産業技術専門校の中原 真氏から「課題への向き合い方・自己実現とスキルアップ~品質工学との出会いと活用を振り返って~」という題目で行われた。特に「自己実現」、「熱量」、「仕事を楽しむ」、「自分の殻を大きくする」などをキーワードにした講演者のエピソードを交えた内容であったため、自身の経験や学ぶことの大切さが伝わってきた講演であった。特に中原氏は、現在、社会人博士課程で学ぶ学生の身分でもあり、自己実現に現在も力を入れており、これから社会に出る学生にとっても、学生を指導する教員にとっても良い刺激になったように思う。

今回の学生賞受賞記念講演は、前回見送りとなった3件のうちの1件であるが、指導教員の東京電機

大学 大西謙吾氏の協力により実現することができた。聴講していた多くの学生の研究の参考と励みになったことと思う。この場を借りて大西氏にあらためてお礼を申し上げる。

続いて卒業研究発表が行われた。実際には、指導教員からの発表が2件と、大学院1年生の発表と、大学院へ進学予定の学部4年生からの発表がそれぞれ1件あり、いずれも中間発表的な位置づけの内容となった。

今回の研究テーマの内訳は、参加者の多くが機械系の研究室に所属しているためか、全てのテーマが機械工学分野の研究であった。また前回と同じ発表者が半数を占め、継続的な内容となっていた。

今回の全体のプログラムは以下の通りである(敬称略)。

<交流会プログラム>

○開会の挨拶

学校教育委員会副委員長 埼玉工業大学 河田直樹
第1部 社会での品質工学の学びの活かし方

司会 埼玉工業大学 河田直樹

<基調講演> 前橋産業技術専門校 中原 真

課題への向き合い方・自己実現とスキルアップ

~品質工学との出会いと活用を振り返って~

<2022年度品質工学会学生賞受賞研究の記念発表(その2)>

東京電機大学大学院 内藤賢宏

(代理発表者:指導教員 大西謙吾)

筋電義手ハンドコントローラのRT法による安定動作のパラメータ推定

第2部 研究発表 司会 各指導教員(リレー方式)

1. 微細加工パターンにおけるフォトリソ条件最適

*九州工業大学

**埼玉工業大学